

専門科目 1	開講時期	必修・選択	時間
<b>「脳卒中急性期重篤化回避の支援技術」</b>	10月	必修	45時間
学習のねらい			
<p>1. 脳卒中発症後急性期の頭蓋内圧亢進を回避し、回復へ繋げるための臨床判断を行い重篤化回避のための支援を実践できる。</p> <p>2. 脳卒中発症後急性期における重篤化回避のためのモニタリングを実践できる。</p> <p>3. 急性期合併症予防支援技術を理解し実践できる。</p> <p>4. 急性期から展開する廃用症候群予防技術を理解し実践できる。</p> <p>5. 脳卒中患者とその家族に対する看護ケアと判断に関する説明責任について理解できる。</p>			
回	学習内容		
1～2	1. 脳卒中発症後急性期管理		
3～4	2. 重篤化回避のために厳密なモニタリングが必要な状況とケア		
5～8	3. 急性期合併症予防の支援技術		
9	4. 急性期から始める廃用症候群予防技術		
10～12	5. 脳卒中患者とその家族に対する看護ケアと判断に関する説明責任		
13～14	6. 事例演習・検討（シミュレーション看護過程）		
15～17	1) 発症から回復へのプロセス管理		
18～19	2) 重篤化回避と臨床判断		
20	1) 脳梗塞急性期		
21～23	2) 破裂脳動脈瘤		
	3) 脳出血時		
	4) 急激な頭蓋内圧亢進と脳浮腫		
	5) 人工呼吸器装着と離脱時		
	6) 脳卒中の周手術期（開頭術、脳血管内治療、脳室、脳槽ドレナージ）		
	7) 脳梗塞のrt-PA治療		
	8) くも膜下出血の再破裂と脳血管攣縮の予防		
	1) 意識・神経障害とケア		
	2) 循環障害とケア（深部静脈血栓予防を含む）		
	3) 栄養管理とケア		
	4) 体液管理とケア		
	5) 呼吸障害とケア（誤嚥性肺炎・窒息予防を含む）		
	6) 呼吸リハビリテーション		
	1) 体圧調整とポジショニング（車いすを含む）		
	2) 座位耐性訓練		
	3) 背面開放座位		
	4) 関節可動域維持訓練（整髪動作訓練を含む）		
	5) 筋力低下予防・筋力維持訓練（床上腰上げ訓練を含む）		

## 評価方法

筆記試験で評価する

\*複数の講師が講義する。参考書をよく読み、講義での資料と共に自分なりにポイントをつなぎ統合すること

## 参考書

1. 日本脳卒中学会脳卒中ガイドライン委員会,小川 彰,出江紳一,片山泰朗,嘉山正,鈴木則宏編集  
脳卒中治療ガイドライン 2015. 協和企画,2015
2. 石鍋圭子他編,専門性を高める継続教育 リハビリテーション看護 実践テキスト. 医歯薬出版株式会社,  
2008
3. 神奈川県総合リハビリテーション事業団・リハビリテーション看護研究会著,実践!リハビリテーション看護ー脳卒中を中心に(新版 第3版). 照林社, 2010.
4. 曷川元編著,実践!早期離床完全マニュアルー新しい呼吸ケアの考え方. 日本離床研究会,慧文社
5. 菊池晴彦監,脳卒中リハビリテーション看護認定看護師カリキュラム準拠脳神経ナース必携  
脳卒中看護実践マニュアル. メディカ出版,2015
6. 山田好秋著,よくわかる 摂食・嚥下のメカニズム(第2版). 医歯薬出版, 2013
7. 館村卓著,臨床の口腔生理学に基づく摂食・嚥下障害のケアとケア. 医歯薬出版 2009
8. 向井美恵他編著,摂食・嚥下ベストナーシング. 学研メディカル秀潤社,2010
9. 田中秀子他著,失禁ケアガイドランス. 日本看護協会出版会,2007
10. 日本褥瘡学会編著,褥瘡ガイドブック. 照林社,2012

専門科目 2 <b>「早期離床と日常生活活動 自立にむけた支援技術」</b>	開講時期	必修・選択	時間
	10月	必修	45時間
学習のねらい			
1. 急性期の運動支援とリスクについて理解できる。 2. 早期離床と基本的動作獲得への支援技術を実践できる。 3. 日常生活活動自立への支援技術を実践できる。			
回	学 習 内 容		
1～3	1. 急性期の運動支援とリスク 1) 可動性の障害に伴う身体機能への影響 2) 運動量の低下した状態とその予防 3) 運動の禁忌とリスク管理		
4～5 6～8	2. 早期離床と基本的動作獲得への支援技術 1) 運動の影響とリスク管理 ①抗重力運動の開始判断とその適応 ②訓練実施のための基準（Anderson、土肥の基準等）		
9～11	2) 体位変換・早期座位保持から立位保持への支援 3) 移乗・移動動作の支援		
12～17	3. 日常生活活動自立への支援技術		
18～19	1) 補装具・自助具の種類と使用方法		
20～23	2) 日常生活動作の自立と代償手段獲得における支援技術 ①食事動作 ②移乗・移動動作 ③更衣動作 ④清潔動作 ⑤排泄動作 ⑥入浴動作 4. まとめ		
評 価 方 法			
筆記試験で評価する。 ＊複数の講師が講義する。参考書をよく読み、講義での資料と共に自分なりにポイントをつなぎ統合すること ＊グループワークでのディスカッション、補装具演習など取り入れます。 ＊グループ発表などの形態で授業も進められます。			
参 考 書			
1. 福井圀彦他編,脳卒中最前線・急性期の診断からリハビリテーションまで,第4版,東京,医歯薬出版,2010,638p 2. 細田多穂監修,中枢神経障害理学療法学テキスト,東京,南江堂,2010,424p 3. 神奈川県総合リハビリテーション事業団・リハビリテーション看護研究会編,実践リハビリテーション看護,第3版,東京,照林社,2010,231p 4. 小山珠美他監修,脳血管障害による高次脳機能障害ナーシングガイド,改訂版,日総研出版,2005,494p. 5. 貝塚みどり他編,QOLを高めるリハビリテーション看護,第2版,東京,医歯薬出版,2011,295p			

専門科目 3 <b>「生活再構築のための支援技術」</b>	開講時期	必修・選択	時間
	10月	必修	30時間
学習のねらい			
1. 運動機能障害者の生活再構築支援を実践できる。 2. 高次脳機能障害者の生活再構築支援を実践できる。 3. 急性期・回復期・維持期（生活期）を通したリスク管理を実践できる。			
回	学 習 内 容		
1～3	1. 運動機能障害者の生活再構築支援 1) 主体性回復への支援と家族への指導 2) 運動機能障害者がもたらす日常生活への影響と生活の再構築に向けた支援		
4～7	2. 高次脳機能障害者の生活再構築支援 1) 言語障害がもたらす日常生活への影響と生活の再構築に向けた支援 2) 失行・失認症等がもたらす日常生活への影響と生活の再獲得に向けた支援 3) 記憶障害・注意障害がもたらす日常生活への影響と生活の再獲得に向けた支援		
8～10	3. リスク管理 1) 転倒・転落予防対策 2) チューブ類の後抜去予防対策		
11～15	3) 誤薬予防対策 4) 離棟予防対策		
評 価 方 法			
レポート、筆記試験で評価する。 グループワークも取り入れた授業があります。積極的に参加してください。			
参 考 書			
1. 細田満和子著,脳卒中を生きる意味—病いと障害の社会学.青海社.2006 2. 自立にチャレンジ!! 生活版ジョブコーチ支援 ガイドブック編・事例編, 日本脳外傷友の会発行.2013 3. 高次脳機能障害支援コーディネート研究会監修,高次脳機能障害コーディネートマニュアル.中央法規.2006 4. 泉キヨ子編,エビデンスに基づく転倒・転落予防.中山書店.2005 5. 泉キヨ子編,特集転倒予防のエビデンスと他施設の対策の実際.リハビリナース, 6(3).メディカ出版.2013 6. 神奈川県総合リハビリテーションセンター 小山珠美監修,高次機能障害ナーシングガイド. 日創研出版(改訂版).2005			

専門科目 4 <b>「脳卒中患者への社会的な支援技術」</b>	開講時期	必修・選択	時間
	11月	必修	15時間
学習のねらい			
1. 脳卒中患者と家族が生活を再構築し、維持していくための全人的ケアと社会的な支援を理解し、実践できる。 2. 脳卒中患者の社会復帰に向けた多職種チームを結成し、協働できる。 3. 在宅生活の継続に向けた地域医療連携・退院調整を実践できる。 4. 脳卒中患者が活用可能な社会資源について理解できる。 5. 脳卒中の発症と再発作の予防のための患者・家族指導を実践できる。			
回	学 習 内 容		
1	1. 脳卒中患者の全人的ケアと社会的支援 1) 尊厳ある意思決定への支援 2) 患者と家族の社会復帰への準備		
2～3	2. 社会復帰に向けた多職種チームの結成と協働 3. 在宅生活の継続に向けた地域医療連携・退院調整 1) 地域連携パスの利用と連携の実際 2) 脳卒中連携パスの利用と地域連携の実際		
4～5	4. 脳卒中患者が活用可能な社会資源 1) 社会保障制度の活用（障害者総合支援法、身体障害者手帳、障害者医療費助成制度など） 2) 介護保険制度の利用 3) 装具・車椅子・在宅改修における公的支援の活用 4) 患者会（ピアサポートの活用）の紹介		
6～7	5) 在宅看護の概要と関連資源 6) 地域健康教室の活用 （転倒予防教室、再発作予防教室、在宅廃用症候群予防教室など）		
8	5. 脳卒中発症と再発作の予防 1) 脳卒中発症・再発作予防のための生活調整 2) 脳卒中発症と再発作予防のための患者・家族指導		
評 価 方 法			
<b>筆記試験</b> *毎回の講義内容は保健医療福祉の広範囲な分野を含みます。脳卒中に関連する社会支援システムを理解するには短期集中での学習期間です。ケア支援の全体像をつかみ今後の脳卒中患者・家族支援について展望してください。			
参 考 書			
1. 国民衛生の動向 2007/2008 年 厚生統計協会 2. 川越博美編. 最新 訪問看護研修テキスト ステップ〈1〉. 日本看護協会出版会, 2005. 3. 権丈善一, ちよっと気になる医療と介護. 勁草書房, 2017 4. 権丈善一, ちよっと気になる社会保障知識補給 増補版. 勁草書房, 2017			